

学校設定科目「国際教養 基礎」の実践

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00061870

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



学校設定科目「国際教養 基礎」の実践

研究部 塚田 章裕

本校は、2019年度より文部科学省WWLコンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定された。そのなかで文理融合された新しい科目として、本校では「国際教養 基礎」という科目を設定した。本稿では、その学校設定科目「国際教養 基礎」の実践の一部を紹介する。

キーワード：WWL 文理融合科目 学校設定科目 総合的な探究の時間

1. はじめに

本校は、2019年度から文部科学省WWL（ワールドワイドラーニング）コンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定された。WWL事業の取組要件の1つに「文理融合された新たな教科・科目の設定」というものがある¹⁾。本校では、総合的な探究の時間をベースとした「国際教養 基礎」という科目を設定した。

本稿では、筆者が作成した3つの単元について紹介する。

2. 「国際教養 基礎」とは

学校設定科目「国際教養 基礎」の目的は、グローバル人材の素地を築くことである。探究的な学びには、「実践」と「理論」の往還が必要だと考え、「国際教養 基礎」では生徒が「体験的」に理論を学ぶことを目標としている。ここでの「理論的アプローチ」とは、探究活動を深めていくための研究手法（スキル）や、習得したスキルを必要に応じて選択し用いるために必要な資質・能力（コンピテンシー）、課題に対して当事者意識を持つなどの意識改革（マインドセット）のことを指している。

具体的には、スキルの例として、パワーポイントスライドの作り方、フィールドワークの方法、発表の際の話し方講座などである。本校教員が独自に工

夫し、教材開発を行っている。

まだまだ実験的な試みの段階ではあるが、「国際教養 基礎」で培った資質・能力（コンピテンシー）は「総合的な探究の時間」だけでなく、各教科科目、学校行事、校外活動など、様々な場面で発揮され、「理論」と「実践」の融合がスパイラル的に展開されていくことを期待している。そして、その資質・能力こそが社会に出て役に立つものであると信じている。

教育課程では1年次に1単位。実際には1年次の総合的な探究の時間（1単位）と合わせて金曜日の5、6限を使って弾力的に運用している。例えば、ある週は総合の時間が2時間、またある週は国際教養の時間というように行っている。

3. 実践1（「ファクトフルネス1」）

(1) 動機

2019年に、『FACTFULNESS（ファクトフルネス）』²⁾という本を読んだ。ベストセラーなので、本の内容を知っている人も多いと思うが、データを基に世界を正しく見る習慣が身につくという本である。著者は世界中のさまざまな人に13の質問をし、その問いに多くの人が間違える。なぜ間違えるのかというと、それは多くの人が10の思い込みにとらわれてしまっているからだと述べている。まさに、先ほどのマインドセットの例として、国際理解にうっ

てつけでかつ、偏見を取り除く授業が展開できると考えた。

(2) 内容

2019年7月と2021年2月に授業を行った。

まず、『FACTFULNESS』にある「ギャップマインダークイズ」³⁾(図1)を生徒に解かせる。このクイズは、大人でも学者でも医者でも高校生でも、最後の地球温暖化の問題を除けば平均正解数が12問中2問であるところが面白い。生徒はあまりの正答率の低さに驚く。

2021年はGoogle formを用いた。設問ごとにクラスの生徒の解答が「a : 51% b : 29% c : 20%」というように円グラフで表示でき、生徒はことごとく予想が外れるので、授業も盛り上がった。

その後、なぜ間違えるのか、それは多くの人が「分断本能」(「世界は分断されている」という思い込み)や「ネガティブ本能」(「世界はどんどん悪くなっている」という思い込み)など10の思い込みにとらわれているからだ、と事例を交えて解説を行った。

(3) 生徒の感想

- ・アフリカは貧困の人が多く、などと自分の思い込みで勝手に決めつけていることが意外と多いんだと感じました。世界はそこまで悪い状況ではなく、人口爆発も起きているが、人口が増え続けるわけではないなどという事実を知り、ネガティブな発言をしているニュースに惑わされているなと思いました。そのため、マスメディアとの関わり方には気をつけないといけないということも感じました。
- ・人口や教育、インフラなど当たり前なことを全く知らなかったと気付きました。強調された悪いニュースばかりを知識として蓄えて実際の世界について全く知ろうとしていなかったからです。特に「人口爆発」というワードと強い結びつきのある途上国は私の想像とは全く違うものだとわかったので、機会を見つけて実際に訪れ、自分の目で知識の更新を行いたいと思います。
- ・私たちが当たり前だと考えていた世界の事実が覆される授業だった。確かに、悪いニュースは広ま

国際教育 基礎 クイズ

- 現在、低所得国に暮らす女子の何割が、初等教育を終了するでしょうか？
A 20%
B 40%
C 60%
- 世界で最も多くの人々が住んでいるのはどこでしょうか？
A 低所得国
B 中所得国
C 高所得国
- 世界の人口のうち、極度の貧困にある人の割合は、過去20年でどう変わったでしょうか？
A 約2倍になった
B あまり変わっていない
C 半分になった
- 世界の平均寿命は現在およそ何歳でしょうか？
A 50歳
B 60歳
C 70歳
- 15歳未満の子供は、現在世界に約20億人います。国連の予測によると、2100年に子供の数は約何人になるでしょうか？
A 40億人
B 30億人
C 20億人
- 国連の予測によると、2100年にはいまより人口が40億人増えるとされています。人口が増える最も大きな理由は何でしょうか？
A 子供(15歳未満)が増えるから
B 大人(15歳から74歳)が増えるから
C 後期高齢者(75歳以上)が増えるから
- 自然災害で毎年亡くなる人の数は、過去100年でどう変化しましたでしょうか？
A 2倍以上になった
B あまり変わっていない
C 半分以下になった
- 現在、世界には約70億人の人がいます。下の地図では、人の印がそれぞれ10億人を表しています。世界の人口分布を正しく表しているのは3つのうちどれでしょうか？

- 世界中の1歳児の中で、なんらかの病気に対して予防接種を受けている子供はどのくらいいるでしょうか？
A 20%
B 50%
C 80%
- 世界中の30歳男性は、平均10年間の学校教育を受けています。同じ年の女性は何年間学校教育を受けているでしょうか？
A 9年
B 6年
C 3年
- 1996年には、トラとジャイアントパンダとクロサイはいずれも絶滅危惧種として指定されました。この3つのうち、当時よりも絶滅の危機に瀕している動物はいくつでしょうか？
A 2つ
B ひとつ
C ゼロ
- いくらがでも電気が使える人は、世界にどのくらいいるでしょうか？
A 20%
B 50%
C 80%
- グローバルな気候の専門家は、これからの100年で、地球の平均気温はどうなるかと考えているでしょうか？
A 確かになる
B 変わらない
C 悪くなる

図1

りやすい。それ故、冒頭のクイズでも、世界のほんの一部で貧困や飢餓に苦しむ人々の映像が脳裏に焼き付いているからだろうか、全く正解出来なかった。世界の環境は、私たちが考えている以上に改善されてきているというのが事実らしい。メディアは、情報を誇張し過ぎていると思う。不安を煽るように悪いニュースばかり流す。たしかに良いニュースはさほど取り上げられない。人々が不安に感じるようなニュースの方が、視聴率が取れるからであろうか。今日学んだ10の思い込みに、とても納得し、ハッとさせられた。今後は、正しい、新しい情報にインプットし直すことが大切になってくると思う。世界の捉え方が少し変わった。視野を広げることができた。本屋で『ファクトフルネス』の本を見つけ読んでみたいと思っていたところだったので、内容が知れて良かった。著者であるハンス・ロスリングはTED talksにも何回か登場しているそうだ。機会があったら、見てみたいと思った。

- ・このような考え方の基礎をもっと早い段階で教えて欲しかった。

(4) 授業の反省

生徒の反応は、予想以上に良かった。ただ、授業の後半の「10の思い込み」の説明については、こちらが一方的に話すだけに終わったので、もう少し工夫が必要であった。実際、生徒の感想にもそのような指摘があり、次年度以降の改善につなげていきたい。

4. 実践2 (「ファクトフルネス2」)

(1) 動機

『FACTFULNESS (ファクトフルネス)』の中には、「ドル・ストリート」というサイト⁴⁾が紹介されている。このサイトは、世界中の家庭の写真を撮影し、家、トイレ、ベッド、靴、などさまざまな写

真が比較できるものである。我々も、アフリカの国だからみな貧しい生活をおくっているという風に思いがちだが、実際は、どの国にも所得の高い人もいれば低い人もいる。国や地域によって持ち物が異なるのではなく、世帯所得によって持ち物が異なることが、このサイトからわかる。

(2) 内容

2020年2月と2021年2月に授業を行った。

「ドル・ストリート」からトイレ(図2)、家(図3)、靴(図4)、歯ブラシ(図5)、自動車の5種類を選んでワークシートを作成した。それぞれ4枚の写真がどの国の家庭の写真かを生徒に予想させる。

4人1組の班を10個作り、トイレについて予想する班が2つ、家について予想する班が2つというように、5種類×2つで10班となる。4人で話し合わせ、予想を書かせた。

その後、せっかくなので、すべての生徒が5種類のワークシートを見ることができるよう、5人1組の班を8つ作り、共有させた。





答え合わせは、元の班に戻り、スマホやタブレットなどで「ドル・ストリート」から探し出させた。自分たちでワークシートと同じ写真を探すので、楽しんで行っていた。その際、写真についている世帯所得をメモさせた。多くの生徒は国のイメージに引きずられ、予想とはずいぶん違ったようである。

普通なら、この授業のねらいを最後に説明するのだが、今回はあえて生徒に授業のねらいを考えさせてみた。

ちなみに、歯ブラシのワークシートは、アメリカ・インド・ソマリア・ルーマニアの4国の写真が1枚ずつあるわけではなく、インドが2枚、ソマリアの写真がないように作成した。指の写真がソマリアだと思うように、意地悪く作成してみた。

国際教養 基礎 「世界を正しく理解するには パート2」 2021.2.19

問 次の4枚の写真は、それぞれどこの国のものでしょうか？
 選択肢： アメリカ合衆国 インド タンザニア 中国

A  B 
 C  D 

○あなたの答え A _____ B _____ C _____ D _____

○なぜ、そう思いましたか？

○他の人の意見

○正解 A _____ B _____ C _____ D _____

○この授業で、どのようなことがわかりましたか？





○授業の感想

1 1年 組 番 氏名 _____ () 班

図2

国際教養 基礎 「世界を正しく理解するには パート2」 2021.2.19

問 次の4枚の写真は、それぞれどこの国のものでしょうか？
 選択肢： アメリカ合衆国 イギリス ハキスタン 南アフリカ共和国

A  B 
 C  D 

○あなたの答え A _____ B _____ C _____ D _____

○なぜ、そう思いましたか？

○他の人の意見

○正解 A _____ B _____ C _____ D _____

○この授業で、どのようなことがわかりましたか？





○授業の感想

2 1年 組 番 氏名 _____ () 班

図3

国際教養 基礎 「世界を正しく理解するには パート2」 2021.2.19

問 次の4枚の写真は、それぞれどこの国のものでしょうか？
 選択肢： アメリカ合衆国 インド エジプト ケニア

A  B 
 C  D 

○あなたの答え A _____ B _____ C _____ D _____

○なぜ、そう思いましたか？

○他の人の意見

○正解 A _____ B _____ C _____ D _____

○この授業で、どのようなことがわかりましたか？





○授業の感想

3 1年 組 番 氏名 _____ () 班

図4

国際教養 基礎 「世界を正しく理解するには パート2」 2021.2.19

問 次の4枚の写真は、それぞれどこの国のものでしょうか？
 選択肢： アメリカ合衆国 インド ソマリア ルーマニア

A  B 
 C  D 

○あなたの答え A _____ B _____ C _____ D _____

○なぜ、そう思いましたか？

○他の人の意見

○正解 A _____ B _____ C _____ D _____

○この授業で、どのようなことがわかりましたか？

○授業の感想

4 1年 組 番 氏名 _____ () 班

図5

(3) 生徒の感想

- ・先入観にとらわれずに考えることはやっぱり難しいと思いました。いろいろな情報を集めて良い答えや結果を出すようにしたい。
- ・どの国でも同じくらいの所得の人は同じようなものを持っているということがわかった。
- ・国によって違いがあるのではなくて所得によって違うということは、インドの2つの歯ブラシの違いからも分かった。国についてのイメージが固定化してしまっているの、世界のことはまだちゃんと理解できていないなあと思った。

(4) 授業の反省

この授業も生徒の反応は良かった。ただ、授業のねらいを考えさせるのは、あまり成功しなかった。「先入観にとらわれてはいけない」とか「国の中に経済格差がある」までは導き出せたが、「国によってではなく、所得によって生活水準が変わる」という答えはなかなか出てこなかった。結局この部分に関しては、こちらが説明せざるを得なかった。

5. 実践3 (「都道府県地図を作ろう」)

(1) 動機

テレビやインターネットなどで、都道府県別の人数であったり、あるいは高校野球の全国大会の出場校が都道府県地図に書き込まれているのを見たことがある人は多いのではないだろうか。特に2020年春以降、新型コロナウイルスの都道府県別感染者人数が連日ニュースで流れている。その際、簡略化した地図を用いているが、これをExcelのセルに入力させたらどうなるかを考えてみた。一定の条件下で、地図を作成するのは難しい。大きさはどうするか、地図の形が実際の地図とどのくらい近づけられるか、隣接する都府県をすべて表すことができるかなど、やってみると意外に難しい。そして、完成した地図は、人によって異なる。結果として、生徒が作

成した122枚、すべて異なるものとなった。

この地図の作成に正解はない。何を重視するかによって地図は変わり、そしてすべての条件を満たすことはできない。この正解のない問いに立ち向かう姿勢は、総合的な探究の時間のねらいと同じではないだろうか。したがって、この授業は総合的な探究の時間の導入にふさわしいのかもしれない。

(2) 内容

- ・条件と流れ

- ①Excelのテンプレートに都府県名を入力する（北海道は入力済）
- ②1つの都府県の大きさはセル1マス（セル1マスは正方形）もしくは2マスとする。2マスの場合は縦長でも横長でも可。
- ③2マスの場合はセルを結合する。
- ④すべての都府県が入力できたら、それぞれの都府県を罫線で囲む。

- ・内容

1年生対象だと、Excelの操作時間が生徒によって差があるだろうと思い、夏休みの課題とした。授業は2020年の9月初旬に行った。

授業は、各自が作成した地図を持ちより、重視した点などをグループ内でディスカッションさせた。その後、筆者がこの授業のねらいを説明し、その考え方を今後の総合的な探究の時間に生かしてほしいと締めくくる。

図6、7は生徒が作成したもの、図8は筆者が作成したもの、図9は本校の地理教員が作成したものである。やはり、作成者によって全く異なるものができるということがわかるのではないだろうか。

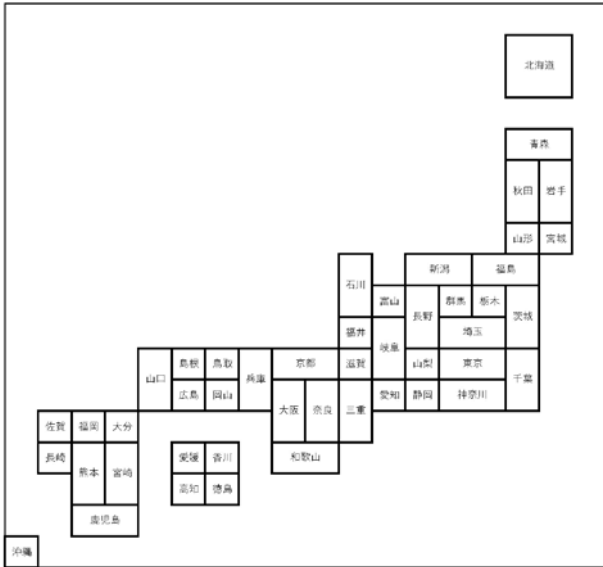


図6

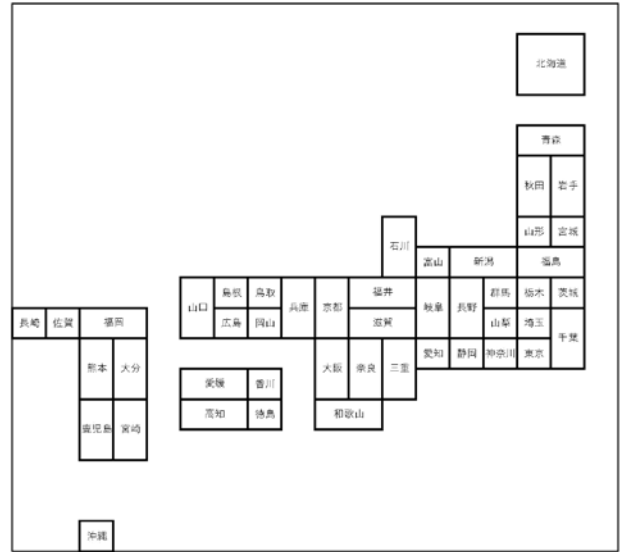


図7

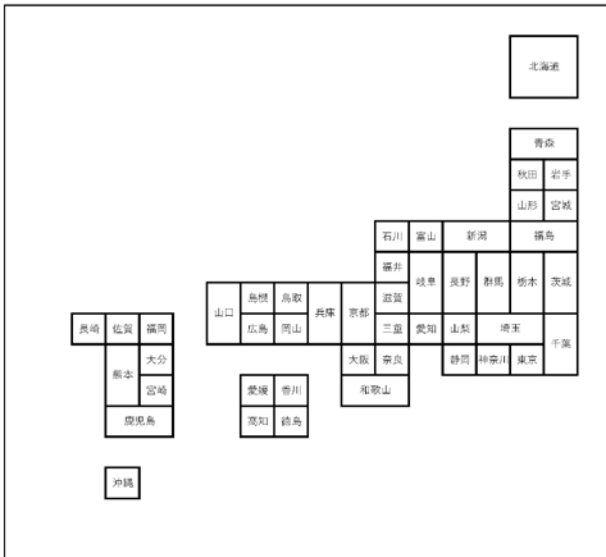


図8

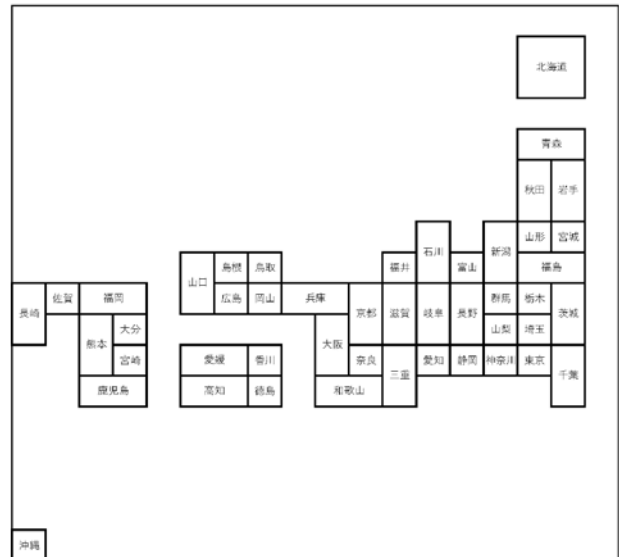


図9

(3) 生徒の感想

- ・友達のものを見ると、自分が絶対と思っていたことが全然違う形になっていたので皆考え方や捉え方が違うと感じた。この課題に限らず、色々な物事の見え方が人それぞれ違うことを改めて感じた。
- ・授業を受ける前はだいたいみんな同じような地図なのに何するのかなーって思っていたのですが、実際に授業で班のみんなの地図を見ると全然同じ地図ではないということを知り、驚きました。今回の授業では、同じ問題を課されても、人によ

て何を重要視するかは全く異なるということを知ることが出来ました。

- ・この授業全体を通して、数学や英語などの教科にはしっかりと決まりきった答えがあるけど、総合の時間には決まりきった答えはなく、自分たちの話し合いと周りの人々とのコミュニケーションを通じて自分たちのゴールに向けて構想を練り上げていかなければならないということがわかりました。自分以外の人には、自分と全く違う視点で物事を見ていることがあるということがわかったので

これからの総合の時間ではもっと他の人の意見に耳を傾けていきたいと思いました。

- ・「答えのない問題に取り組む」ということは中学校のときから言われてきたが、あまり意味がわかっていなかった。それが今回のわかりやすい例えについて手を動かしてみて、なんとなくわかった気がする。
- ・授業の中では、同じ班の仲間だけではなく、先生方の意見も聞くことができました。でもそこには正解や不正解なんてものは存在しなくて、人それぞれに基準というものがあるんだと改めて気づかされました。少し変な言い方かもしれないけれど、指定された条件の中で、取捨選択をしていくわけで、これも今回の地図に限らず、人それぞれの考え方がもととなって、人それぞれの結論が出ていくんだと感じました。今のコロナ対策の話もそうだけれど、世の中に出れば、正解のない間いというものは無数にあるわけで、そこでまた人それぞれの価値観の違いなどがぶつかっていくんだと思います。でもそれを否定せずに、その違いを認め合い、受け入れて、大切にしていきたいなと改めて感じました。

(4) 授業の反省

授業を計画した時には、何となく面白い授業ができればいいかなと思っていたが、生徒の感想を見ると、思いのほか反応は良かった。特に現在進行中の総合的な探究の時間に生かせようだという感想が多く見られた。

ただ、Excelの操作に時間がかかるため、授業をいつ行うかについては、あまり自由度がないのかもしれない。その点についてはまだ解決策が見出せていない。

6. おわりに

以上、3つの授業実践について報告した。本校の「国際教養 基礎」はまだまだ実験的な段階である。もっと多くの教員に関わってもらい、多くの授業を蓄積する必要がある。そして、ゆくゆくは他校でも実践してもらえるような状況にまで持っていきたい。

注：

- 1) https://www.mext.go.jp/content/20191227-mxt_koukou02-000003585_1.pdf#page=14 (最終アクセス 2021年3月10日)
- 2) 『FACTFULNESS (ファクトフルネス)』(ハンス・ロスリング著 日経BP, 2019年)
- 3) 前掲書 2) pp.9-13
ちなみに、このクイズはwebサイトで誰でも挑戦できる。<https://www.gapminder.org/test/> (最終アクセス 2021年3月10日)
- 4) <https://www.gapminder.org/dollar-street> (最終アクセス 2021年3月10日)